

別院本堂屋根瓦・雨樋修繕工事
(一〇一〇年四月二十四日撮影)



今年は、春の息吹と花鳥風月に心地よさを想う時を見失うかの如き、新コロナ感染が世界中に蔓延して様々な分野に深刻な影響をもたらしている。あらゆる未来への希望が曖昧となつて、私どもの生活を脅かし、これまで経験したことのないような現実が到来して います。この困惑と不安のただ中で、これまでの生活様式までもが問われるような深刻な状況に身を晒しています。このようなとき、私どもは否応なしに生きることの意味と意義を考えざるを得ないわけで、この状況から何が問われているのか、どうこの現実に対処していくべきなのか、この課題は途轍もなく広く深く茫洋として明快な道筋が見いだせないで終わるようにも感じています。このところの新聞紙上に「コロナ禍」と言う表現があることに私は少々違和感を抱いています。「吉凶禍福」吉と福は歓迎、受容すべきもので、凶と禍は拒否、排除すべきものと言うことになるのであります。

コロナ禍とはコロナウイルスが招いた災い、つまり、コロナは拒絶して避け、打ち勝つものであると言う、危機的災厄的な不幸な状況と言うことでしょうか。勿論、新コロナ感染拡大を容認し是とするつもりは毛頭なく、医療関係従事者の感染症に対する献身的な姿勢とご努力には敬意を表しつつも、敢えて言うなれば、どんな社会状況が露呈したとしても我々の

本願力

【発行】真宗大谷派 本願寺横浜別院
〒234-0051
横浜市港南区日野一ー十一八
（〇四五）八四一ー三四三四
FAXTEL
(http://www.yokohama-oootani.com)

雜感九

輪番 坂田 智亮

今年は、春の息吹と花鳥風月に心地よさを想う時を見失うかの如き、新コロナ感染が世界中に蔓延して様々な分野に深刻な影響をもたらしている。あらゆる未来への希望が曖昧となつて、私どもの生活を脅かし、これまで経験したことのないような現実が到来して います。この困惑と不安のただ中で、これまでの生活様式までもが問われるような深刻な状況に身を晒しています。このようなとき、私どもは否応なしに生きることの意味と意義を考えざるを得ないわけで、この状況から何が問われているのか、どうこの現実に対処していくべきなのか、この課題は途轍もなく広く深く茫洋として明快な道筋が見いだせないで終わるようにも感じています。このところの新聞紙上に「コロナ禍」と言う表現があることに私は少々違和感を抱いています。「吉凶禍福」吉と福は歓迎、受容すべきもので、凶と禍は拒否、排除すべきものと言うことになるのであります。

私は数十年前先輩に誘われて福岡マリンメッセに数値計算や情報処理をするという画期的な白黒コンピューターの展示会に出向いたことがある。そこで見聞した世界に驚嘆、驚愕した感覺を今でも覚えている。これからの社会は、もう我々の想像をはるかに超えて異次元の世界に突入して、あらゆる分野の科学技術の発展思考は止まるところを知らず、人生の在り方、価値観人生観は多様化していくであろうと。そして、人間の充足の限界に何の展望も持ち得ず、ただ欲望満足にひた走りグローバル的な世界を構築して、豊かさを追い求め高度成長をひた走ってしまうであろうという予感があつたのかもしれない。そして、手に入れたはずの豊かさの恩恵は瞬時に瓦解したり、同時に一部地域の人々が犠牲になるという構造を必ず生み出し、現に今も未解決のままこの社会に残存し再生産しているとするならば、これら、また惹起しうる現実の問題に学ぶべきことは、今なお、山積していると思うのです。人々はどのよ

（清沢満之）

→ 被害の状況（屋根瓦）



昨年九月の台風十五号、十月の台風十九号は甚大な被害をもたらし、今現在も復旧作業中の地域もあります。横浜別院でも強風により本堂屋根瓦が剥がれ、雨樋（あまとゆ）が吹き飛ぶなど被害がありました。四月から約一ヶ月をかけて修繕工事を行ないました。

うな地球規模の社会を目指し、人類の幸福な世界を描いてきたのか。決して人間の「いのち」を見誤つてはならない、生き方いや「いのち」の危機である。あらゆる社会的立場を超えて、人間の存在の平等性を証明しているのは、敢えて言うならば社会の底に横たわり、社会の犠牲となり、見棄てられつつある何の力も持てない「弱き人」である。決して忘却してはならない「弱き人」この人々こそが「いのち」の尊嚴という根本問題を照らし出す人々であろう。私たちは心許し愛すべき「朋」を見失つてはならない。

別院本堂屋根瓦・雨樋修繕工事 (四月十日～五月四日)

← 修繕後の本堂・雨樋



← 被害の状況（雨樋）

新型コロナウイルス感染症に対する当別院の対応について (二〇二〇年六月一日現在)

冠省、現在、新型コロナウイルス感染症の流行が深刻化し、日常生活が予断を許さない状況になつてきております。各種報道のとおり、五月二十六日に緊急事態宣言が解除されま

※ご不明な点がございましたら別院までご連絡ください。(二〇二〇年六月一日現在)

- ①法要前には必ず手洗い・手指の消毒を厳守ください。また、参列者にも同様に手洗い・手指の消毒を徹底いただきます。
- ②常に咳エチケットを心掛け、勤行・読経の際にもマスクを着用し、また参列者にも同様にマスクの着用を徹底いただきます。
- ※マスクをお持ちでない方は、別院で多少の用意があります。お持ちでない方は、お声かけください。僧侶におきましても常時マスク着用にて対応いたします。
- ③感染リスクを減らすために、3つの「密」（密閉空間・密集場所・密接場面）を避けてください。
- ※隣の方とは椅子を空けて着席いただき、法要毎には喚起を徹底いたします。
- ④少しでも発熱など、身体の不調や不安がある方は参列をお控えください。
- ⑤日常的に自己管理を徹底いただき、感染者の媒介者とならないよう留意ください。

したが、楽観できない状況が続いております。一刻も早く感染症が収束することを念じております。

このたび、当別院においては、次の感染予防を徹底したうえで法務、行事を勤めさせていただきます。

何卒、感染予防にご配慮いただき、皆様方のご理解・ご協力の程、よろしくお願ひ致します。

【神奈川四ヶ組（横浜・川崎・三浦・湘南）のうごき】

仏華講習会（寺族研修会） 講師 洲崎善範師（「ちいの華」会員）

（二月二十六日）

神奈川教化センター伝道部主催で仏華講習会を開催しました。これまで何度も仏花を立てる研修ができないかという意見があり、今回大阪より洲崎善範師にお越しいただき開催する運びとなりました。本堂には、なかなか仏花の立て方を教わる機会がなく、その寺院ごとで、自己流で立てられている方が多くおられるとのことでした。

参加者は神奈川四ヶ組寺院の坊守さんが多く、三名で一班を作つて作業を始めました。午前は、洲崎先生より講義をいただきました。

「立花（りっか）」とは、室町時代後半から江戸時代初めにかけて完成した、最も伝統あるいけばなのスタイルです。古来より神仏へ供えられてきた花は、室町時代に邸宅を飾る花（座敷飾り）へと発展していきました。座敷飾りの花として、真（本木）と下草で構成される「立て花（たてはな）」と呼ばれるいけばなが誕生します。立て花は、客人をもてなす場に用いられ、室町時代後半、「立花」へと発展しました。また、仏に花を供えるために用いられた三具足が、座敷飾りに転用されました。三具足とは、花瓶・香炉・燭台（ろうそく）で一組にな



る仏具です。立花には「七九（しちく）」の道具」と呼ばれる役枝が決まっています。「真（しん）」という枝を中心に、「正真、副、請、控枝、流枝、見越、胴、前置」の九つです。役枝を使い、左右を非対称にしながらバランスを取りながら立てていきます。また、古い枝と新しい枝と相対するものを共存させていくことが立花の有り方を示しています。立花は「花のオーケストラ」とも「宇宙を表現している」とも言われます。複雑かつ数多くの姿を持つ花や枝葉が織りなすハーモニーと空間ことが立花の魅力です。」

午後からは、各班ごとに異なった真を用いて、たくさんの花材を使いながら、実際に立花を行ないました。洲崎先生からアドバイスをいただき、試行錯誤しながら立てている姿が印象的でした。「習うより慣れろ」、二の足を踏まずにまずはやつてみることが大切であるを感じました。（文責家本）

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、各種学習会や研修会等が延期や中止となっています。外出せすとも教えの言葉に触れる機会として、インターネット配信の法話をぜひご活用ください。法話や教えの言葉などをお手持ちのパソコンやスマートフォンから観ることができます。詳細は、真宗大谷派（東本願寺）ホームページや真宗会館ホームページを検索ください。

法話インターネット配信について



【神奈川四ヶ組行事予定表】

【日時】
八月三十一日（月）～九月一日（火）
【神奈川連合組会・総会】

